

福島清紀著『寛容とは何か—思想史的考察』刊行賛助金ご出資のお願い

2016年11月にご逝去なされた故福島清紀さんは、晩年の十数年間を寛容論の思想史的研究に捧げてこられました。昨今の国内外の動向を前に福島さんは、寛容についてより粘り強い思考が求められていると考え、その研究成果を一冊の本にまとめて世に問おうと、病床にありながら最期まで発表済み関連論考の推敲に取り組んでおられました。故人の遺志を継ぎ、私たちは、残された論考（その多くが推敲済み）をもとに、皆様のお力添えを得て、福島さんの寛容に関する論考を一冊にとりまとめた論文集の刊行を実現したいと考えています。

出自、思想信条などの異なる人々に対する不寛容な言説が少なからず耳に入る現在、他者を遇することについて私たち一人ひとりがじっくりと考えるための知的な源泉として、本書が世に問われることには大きな意味があると思います。何卒よろしくごお願い申し上げます。

福島清紀論文集刊行委員会 奥田太郎

書名：『寛容とは何か—思想史的考察』

著者：福島清紀

出版元：工作舎

定価：5,000円（予定）

刊行予定：2018年3月

資金の用途について

ご支援いただいた資金はすべて、福島清紀論文集の刊行に関わる費用に充てさせていただきます。

編集・デザイン費 20万円

紙・印刷・製本費 100万円

上記費用を、皆様からのご協力によって支えていただければと考えております。



目次（予定）：

- 第一部 近代西欧における寛容思想の展開
 - 第一章 政教分離の思想的基礎づけ—ジョン・ロックの『寛容についての書簡』を中心に
 - 第二章 相互的寛容への隘路—ピエール・ベール論覚書
 - 第三章 17世紀西欧における教会合同の試み—ライプニッツとボッシュエとの往復書簡に関する一考察
 - 第四章 《狂信》と《理性》—ヴォルテール『寛容論』再考
 - 第五章 党派性の克服はいかにして可能か—レッシング『賢人ナータン』を中心に
- 第二部 宗教・国家・市民社会の近代的構造連関と帝国憲法下の不寛容との闘い
 - 第六章 国家と宗教—カール・マルクス「ユダヤ人問題によせて」に関する試論
 - 第七章 明治期の政治・宗教・教育—「内村鑑三不敬事件」と「教育と宗教の衝突」論争
 - 第八章 1930年代における「転向」の一樣相—文学者中野重治の軌跡
 - 補章 寛容は共存の原理たりうるか—ザルカの思考に寄せて

賛助金について

一口5,000円より賛助金をお寄せください。

募集期間（第1期）：

2017年6月20日～2017年9月30日

（10月中旬に中間報告を公表）

募集期間（第2期）：

2017年10月1日～2018年3月31日

（4月中旬に最終報告を公表）

ご支援（第1期）へのお返しについて

- ・1口分ご支援くださった方へのギフト：お礼状を送付。
- ・2口分ご支援くださった方へのギフト：論文集を1冊贈呈。
- ・4口分以上ご支援くださった方へのギフト：論文集を1冊贈呈。さらに、論文集あとがき上の謝辞にて、ご氏名を掲載。

ご希望の口数分の賛助金を、下記口座までお振込みください。（お振込みの際、通信欄に住所のほか、E-Mailアドレスもご記入ください。）

【郵便振込の場合】

口座記号番号：00150-6-514695

口座名称（漢字）：福島清紀論文集刊行委員会

口座名称（カナ）：フクシマキヨリロンブンシュウカンコウイインカイ

【銀行振込の場合】

銀行名：ゆうちょ銀行

店名（番号）：〇一九（ゼロイチキユウ）店（019）

預金種目：当座

口座番号：0514695

口座名称（漢字）：福島清紀論文集刊行委員会

口座名称（カナ）：フクシマキヨリロンブンシュウカンコウイインカイ